

日本板硝子株式会社 2006年11月21日説明会 主なQ&A

1. 業績見直しについて

Q1.今中間期の経常利益60億円予想が83億円となったが、増益の要因は？

A1.円ポンドレート（当初計画210円→221円）による要因が10数億。借入増による金利増の一方で、ピルキントンの支払利息で当初見えていた借入の手数料は、実績では買収関連の特損になったことなどもあるが、基本的にはピルキントンの業績が想定よりも好調なことが大きい。欧州ではドイツ、東欧、ロシアなどで建築用ガラスの需給が非常にタイトな状況がある。稼働率は85%を超えている。

Q2.今期予想利益を据え置いているのは、どう理解したらよいか？

A2.のれんの影響はそのままの為替レートで推移すればマイナス影響だが、まだ精査が必要で100%確定のものではない。また、ピルキントンが好調を維持していることと、日本でもオイル価格の低下もあり、業績回復基調が見えていることで、達成可能と考える。ただし今期は会計処理などいろいろな変動要因があり、業績予想については、もう少し見極める必要もある。

Q3.ピルキントン分の業績は前年と比べてどうか？

A3.今期から会計処理が日本基準になっているため、単純にいけないが、ピルキントンでは、建築用、自動車用とも確実に前年比プラスである。

Q4.欧州の需給の状況を見て、今後の供給量拡大の予定は？

A4.既にアナウンスをしているものもあるが、カザフスタンにフロートを検討している。来年から工事着工、再来年稼働を目標としている。ガラス空白地帯であり、ロシアへの出荷も見込んでいる。

2. 中期計画について

Q1.中期計画のFlat Glassの利益増が145億円だが、保守的なのか？累計投資計画は1700～1800億円ありそうだが、その効果はあるか？

A1.例えばシナジーなども当初計画に比べて、いろいろなものが出てきているが、この利益計画の前提では数字は保守的に見ている。また、為替を1ポンド200円で見ていることもあり、目減りしている面もある。投資については、例えばフロート窯は建設から稼働まで約2年かかることもあり、収益計上までは時間がかかるという面もある。

Q2.ピルキントンとの組織、人事の統合の方向性は？

A2.基本は一本化した運営体制として、地域ごとの責任者がいる形になろうが、詳細は近々公表したい。

Q3.中期計画で自動車ガラスの増収は市場成長並みか？

A3.YES

以上